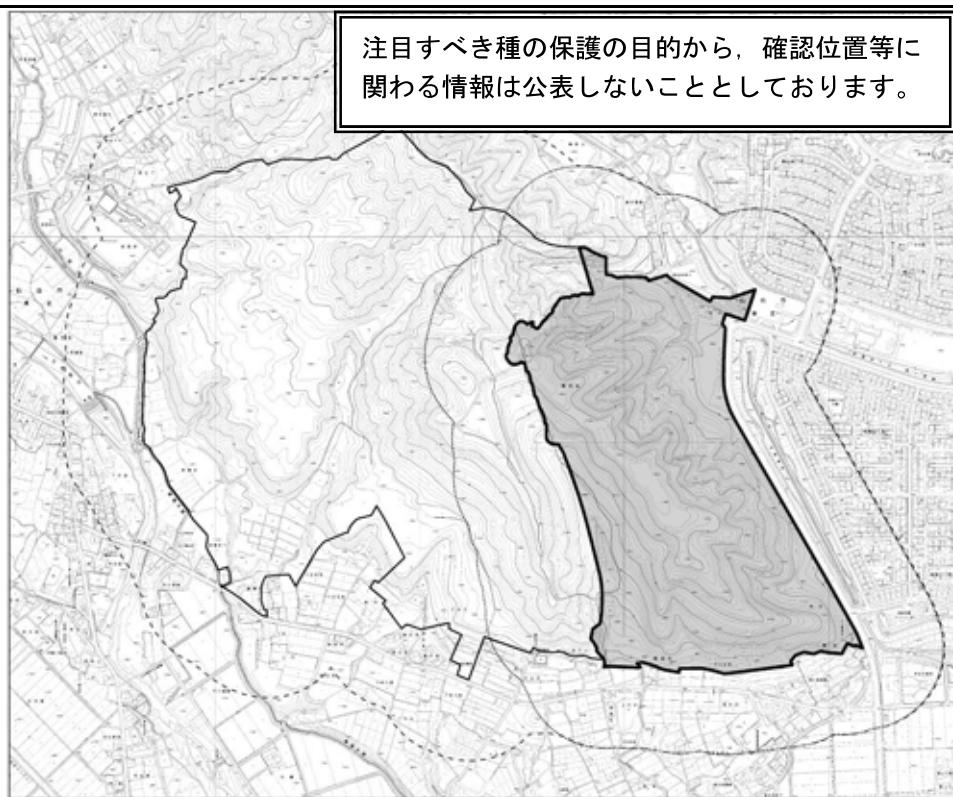


表 8.6-4(34) 予測結果と事後調査結果の比較(Sparganium 属)

種名		Sparganium 属 <sup>*1</sup>									
注 選 定 基 準 す べ き 種	仙台市										
	学術上 重要種	減少種									
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜					
	1 <sup>*2</sup>	A <sup>*3</sup>	A/B <sup>*4</sup>		A/B <sup>*5</sup>	○ <sup>*6</sup>					
	環境省レッドリスト		VU/NT <sup>*7</sup>	宮城県レッドデータブック		CR+EN/NT <sup>*8</sup>					
	文化財保護法			種の保存法							
査 現 結 果 調 査	対象事業計画地内			対象事業計画地外(計画地周辺 200m)							
	地点数	1	個体(確認)数	約 30	地点数	0					
	確認状況	秋季調査時において、[REDACTED]で確認された。									
予 測 結 果 (工 事)	確認地点は改変区域内であるため、切土・盛土・掘削等の改変により、本種は全て消失する。また、地域の概況に示す調査地域（対象事業計画地を中心とした概ね 9km 四方の範囲）においても生育が確認されていない。よって、事業の実施が本種に与える影響は大きいと予測する。										
事 後 調 査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)										
	地点数	0	個体(確認)数	0							
調 査 結 果 と 事 較 後	確認状況	調査範囲内では確認されなかった。									
予 測 結 果 の 確 認 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種は [REDACTED] 改変区域内に存在し、改変に伴い消失すると予測されたことから、代償措置として移植を実施した。移植後モニタリングでは、生育が良好であることが確認された。</li> <li>事後調査では、東工区周辺において本種の新たな確認はなかった。</li> </ul>										
予 測 対 象 種 の 確 認 位 置	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p> </div>										

\*1：宮城県内に生育するとされている Sparganium 属の植物はミクリ、オオミクリ、エゾミクリ、ヤマトミクリ、ホソバタマミクリ、ナガエミクリ、ヒメミクリの 8 種である。花及び実がなく、葉のみの確認であったため、種を特定するには至らなかった。

\*2：オオミクリ及びエゾミクリ、ホソバタマミクリを除く 4 種が「1」に該当する。

\*3：ヤマトミクリのみ「A」に該当する。

\*4：ヤマトミクリ、ナガエミクリは「A」に、ミクリ及びヒメミクリは「B」に該当する。

\*5：ヤマトミクリ、ナガエミクリは「A」に、ミクリは「B」に該当する。

\*6：ミクリが「○」に該当する。

\*7：オオミクリ及びヒメミクリは「VU」に、ミクリ、ヤマトミクリ、タマミクリ、ナガエミクリは「NT」に該当する。

\*8：オオミクリ、エゾミクリ、ヤマトミクリ、タマミクリは「CR+EN」に、ヒメミクリは「VU」に、ミクリ及びナガエミクリは「NT」に該当する。

表 8.6-4(35) 予測結果と事後調査結果の比較(キンセイラン)

種名		キンセイラン								
注 定 基 準 す べき 種	仙台市									
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種			
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜				
	1	・	B	・	・	・				
	環境省レッドリスト		VU		宮城県レッドデータブック		CR+EN			
	文化財保護法		種の保存法							
現 況 調 査	対象事業計画地内				対象事業計画地外(計画地周辺 200m)					
	地点数	0	個体(確認)数	0	地点数	1	個体(確認)数	1		
	確認状況	早春調査時において、[REDACTED]で確認された。								
予 測 結 果 (工 事)	確認地点は改変区域外であるため、切土・盛土・掘削等が本種に与える影響はない予測する。									
事 後 調 査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)									
	地点数		1	個体(確認)数		1				
	確認状況	秋季に[REDACTED]の1地点で1株を確認した。								
予 測 結 果 と 比 較 事 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種は、現況調査と同様、[REDACTED]で新たに確認された。</li> <li>確認地点は現況調査、事後調査いずれも[REDACTED]改変区域外であることから、東工区の改変による本種への影響はなかったものと判断する。</li> </ul>									
予 測 対 象 種 の 確 認 位 置	<p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p>  <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注目すべき種 確認位置</li> <li>● 現況調査 (R1-R2)</li> <li>● 事後調査 (R3-R4)</li> <li>■ 対象事業計画地</li> <li>■ 東工区</li> <li>----- 対象事業計画地より200mの範囲</li> <li>---- 東工区より200mの範囲</li> </ul>									

表 8.6-4(36) 予測結果と事後調査結果の比較(キンラン)

種名		キンラン									
注 定 基 準 す べき 種	仙台市										
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種				
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜					
	1	B	B	・	・	・					
	環境省レッドリスト		VU		宮城県レッドデータブック		VU				
	文化財保護法		種の保存法								
現 況 調 査	対象事業計画地内				対象事業計画地外(計画地周辺 200m)						
	地点数	0	個体(確認)数	0	地点数	1	個体(確認)数	16			
	確認状況	春季調査時において、[REDACTED]で確認された。									
予 測 結 果 (工 事)	確認地点は改変区域外であるため、切土・盛土・掘削等が本種に与える影響はない予測する。										
事 後 調 査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)										
	地点数	1		個体(確認)数	10						
	確認状況	春季に[REDACTED]の1地点で10株を確認した。									
予 測 結 果 と 比 較 事 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種は、現況調査と同地点で確認された。</li> <li>確認地点は[REDACTED]改変区域外であることから、東工区の改変による本種への影響はなかったものと判断する。</li> </ul>										
予 測 対 象 種 の 確 認 位 置	<p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p>  <p>The map displays the study area boundary (black line), the survey point (black dot), and various geographical features like roads and buildings. A legend on the right side provides key information:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>凡例 (Legend):       <ul style="list-style-type: none"> <li>注目すべき種 確認位置 (Target species confirmation location): Blue dot.</li> <li>現況調査 (R1-R2) (Current status survey): Red dot.</li> <li>事後調査 (R3-R4) (Post-survey): Red dot.</li> <li>対象事業計画地 (Target development plan area): Black rectangle.</li> <li>東工区 (Tōkō area): Shaded area.</li> <li>対象事業計画地より200mの範囲 (200m range from target development plan area): Dashed line.</li> <li>東工区より200mの範囲 (200m range from Tōkō area): Dashed line.</li> </ul> </li> <li>Scale bar: 0 to 400 m.</li> <li>Compass rose: North arrow.</li> </ul>										

表 8.6-4(37) 預測結果と事後調査結果の比較(トケンラン)

種名		トケンラン														
選定すべき種 基準	仙台市															
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種									
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜										
	環境省レッドリスト	VU		宮城県レッドデータブック		CR+EN										
	文化財保護法			種の保存法												
現況調査	対象事業計画地内			対象事業計画地外(計画地周辺 200m)												
	地点数	1	個体(確認)数	約 60	地点数	0	個体(確認)数	0								
	確認状況	春季調査時において、[REDACTED]で確認された。														
予測結果(工事)	確認地点は改変区域内の [REDACTED] であるため、本事業による切土・盛土・掘削等の改変により、本種は全て消失する。また、地域の概況に示す調査地域（対象事業計画地を中心とした概ね 9km 四方の範囲）においても生育が確認されていない。よって、事業の実施が本種に与える影響は大きいと予測する。															
事後調査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)															
	地点数	0		個体(確認)数	0											
予測結果と事後	確認状況	調査範囲内では確認されなかった。														
予測結果の確認位置	<p>・本種は [REDACTED] 改変区域内に存在し、改変に伴い消失すると予測されたことから、代償措置として移植を実施した。移植後モニタリングでは、生育が良好であることが確認された。</p> <p>・事後調査では、東工区周辺において本種の新たな確認はなかった。</p>															
	<p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p> 															

表 8.6-4(38) 予測結果と事後調査結果の比較(クモキリソウ)

種名		クモキリソウ											
選定基準	仙台市												
	学術上 重要種	減少種											
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜	環境 指標種						
	1, 4	・	B	・	・	B							
	環境省レッドリスト		宮城県レッドデータブック										
	文化財保護法		種の保存法										
現況調査	対象事業計画地内			対象事業計画地外(計画地周辺 200m)									
	地点数	1	個体(確認)数	2	地点数	0	個体(確認)数						
	確認状況	秋季調査時において、[■]で確認された。											
予測結果(工事)	確認地点は改変区域内の[■]であるため、切土・盛土・掘削等の改変により、本種は全て消失する。しかし、地域の概況に示す調査地域（対象事業計画地を中心とした概ね 9km 四方の範囲）においても生育が確認されていることから、事業の実施が本種に与える影響は小さいと予測する。												
事後調査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)												
	地点数	0		個体(確認)数	0								
調査結果と事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査において本種は確認されなかったが、現況調査時の確認数は 1 地点 2 株のみであり、当該地域における生息数はそもそも少ないと考えられる。</li> <li>現況調査時の確認地点は、[■] 改変区域外であることや評価書の地域の概況に示す調査地域（対象事業計画地を中心とした概ね 9km 四方の範囲）においても生育が確認されていることから、個体群は存続しているものと考えられる。したがって、東工区の改変による本種への影響はなかったものと判断する。</li> </ul>												
予測対象種の確認位置	<p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p>												

表 8.6-4(39) 予測結果と事後調査結果の比較(ヒメフタバラン)

種名		ヒメフタバラン														
注 定 基 準  選 定 す べき 種	仙台市															
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種									
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜										
	2	・	・	・	・	・										
	環境省レッドリスト				宮城県レッドデータブック	要										
現 況 調 査	文化財保護法				種の保存法											
予 測 結 果 (工 事)	対象事業計画地内			対象事業計画地外(計画地周辺 200m)												
	地点数	1	個体(確認)数	約 30	地点数	0	個体(確認)数	0								
	確認状況	春季調査時において、[REDACTED] で確認された。														
事 後 調 査	東工区周辺 200m(東工区内は除く)															
	地点数	0		個体(確認)数	0											
	確認状況	調査範囲内では確認されなかった。														
予 測 結 果 と 比 較 事 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種は [REDACTED] 改変区域内に存在し、改変に伴い消失すると予測されたことから、代償措置として移植を実施した。移植後モニタリングでは、生育が良好であることが確認された。</li> <li>事後調査では、東工区周辺において本種の新たな確認はなかった。</li> </ul>															
予 測 対 象 種 の 確 認 位 置	<p>注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に 関わる情報は公表しないこととしております。</p> <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注目すべき種 確認位置</li> <li>● 現況調査 (R1-R2)</li> <li>● 事後調査 (R3-R4)</li> <li>■ 対象事業計画地</li> <li>■ 東工区</li> <li>----- 対象事業計画地より200mの範囲</li> <li>---- 東工区より200mの範囲</li> </ul>															

## イ 検証結果

予測結果の検証は前掲表 8.6-4 に示すとおりである。予測対象種において、工事の実施により予測を上回って影響を受けると判断された種はなかった。また、評価書時に改変等の影響を受けると予測された種に対しては、代償措置として移植を実施している。

さらに、代償措置のほか、回避・低減措置として濁水防止、粉じん防止等に努めており、注目すべき種への影響は、実行可能な範囲で低減されているものと評価する。

### 8.6.2. 追加保全対策の検討

#### (1) 植物相

事後調査結果は、地形の改変に伴い、樹林環境やため池等が減少したことにより、主に樹林性の種や水草が減少したものの、予測を上回るような工事に伴う植物相への影響は見られなかつた。したがつて、追加保全対策は必要ないものと判断する。

引き続き「5. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況 5.6. 植物」に示す環境保全対策を実施することにより環境負荷の低減を図る。

#### (2) 注目すべき種

事後調査結果は予測結果のとおり、東工区の改変によって一部の予測対象種は消失したもの、東工区周辺において確認された種も多くあった。予測対象種のうち 15 種については、代償措置として移植を行うことにより事業に伴う影響を低減している。

したがつて、注目すべき種は改変による影響が小さい種、代償措置を講じた種、影響を受けない種であったことから、追加保全対策は必要ないものと判断する。中央・西工区で確認された種については中央・西工区の土地の改変時においても事後調査を実施し予測・評価の検証を行う。

引き続き「5. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況 5.6. 植物」に示す環境保全対策を実施することにより環境負荷の低減を図る。

## 8.7. 動物

### 8.7.1. 予測結果の検証

#### (1) 動物相

##### ア 予測結果と事後調査結果の比較

動物相全体に係る予測結果と事後調査結果の比較は、表 8.7-1 に示すとおりである。また、分類群ごとの予測結果と事後調査結果の比較は、①～⑦に示すとおりである。

表 8.7-1 予測結果と事後調査結果の比較(動物相)

予測結果	事後調査結果
<ul style="list-style-type: none"><li>事業計画によると、対象事業計画地の約 85%が改変される。その大部分は、樹林環境であることから、特に樹林を生息環境としているほとんどの動物種は事業の実施による影響を受け、個体数や個体群の減少・消失が想定される。また、対象事業計画地に点在するため池の多くが消失するため、両生類や魚類、底生動物等の止水域を生息環境とする種についても同様に、個体数や個体群の減少・消失が考えられる。</li><li>工事による影響として、資材等の運搬によるロードキル（轢死）や、重機の稼動による騒音・振動、切土・盛土・掘削等による生息環境の減少・消失等が挙げられる。生息環境が減少・消失する場合、移動能力のある動物種は周辺地域に存在する樹林や草地等に逃避すると考えられるが、移動能力の低い種は工事による影響を受ける。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>事業計画の変更に伴い、対象事業計画地は東工区と中央・西工区の分割施工となり、東工区の造成が進められている。</li><li>対象事業計画地内に生息している動物種のうち、東工区の樹林内に生息していた種は改変に伴い生息環境や個体数が減少したものの、移動能力の高い動物相については中央・西工区及び対象事業計画地の周辺地域に移動したものと考えられる。移動能力の低い動物相について、特に影響を受ける種については代償措置として移植を実施した。</li><li>資材等の運搬等の工事用車両や重機の稼動による衝突は確認されていない。</li></ul>

## ① 哺乳類

哺乳類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-2、現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-3 に示すとおりである。

表 8.7-2 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：哺乳類)

確認種数	予測結果	事後調査結果
	16 種(現況調査)	16 種
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地の改変は対象事業計画地のほぼ全域にわたって行われることから、樹林を生息環境として利用するニホンリスやムササビ、ツキノワグマ、カモシカ等の生息環境は減少・消失する。しかし、対象事業計画地の北側から北西側にかけて、対象事業計画地と同様の樹林環境が広がっていることから、造成工事の初期段階において、周辺地域へ逃避して生息すると考えられる。また、多様な環境を利用するタヌキやキツネ、イノシシ等についても、土地の改変により生息環境の一部が減少する。工事中は、資材等の運搬、重機の稼動や切土・盛土・掘削等により、対象事業計画地から一旦は逃避すると考えられるが、これら雑食性の哺乳類は餌内容を環境によって柔軟に変化させることができ、生態的可塑性が高いため、工事終了後は公園の緑地や緑道、造成緑地等を移動経路として利用し、対象事業計画地を再び生息環境の一部として利用するようになるとされるため、事業の影響は小さいと考えられる。</li> <li>アズマモグラやヒナコウモリ科は、主に [REDACTED] で確認されている。[REDACTED] はほとんど改変されないことから、これら草地性哺乳類への事業の影響は極めて小さいと考えられる。</li> <li>以上より、工事による影響としては、樹林性哺乳類の生息環境の消失や減少等が考えられるが、周辺地域に存在する同様の樹林環境に逃避して生息するものと考えられる。なお、草地性哺乳類はその生息環境が改変されないことから、影響は極めて小さいと考えられる。存在による影響としては、周辺地域に逃避すると考えられるが、一旦は逃避するものの戻ってくる可能性のある種もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[REDACTED] では、ニホンリスやムササビ、ヒメネズミ、カモシカ等の樹林性の哺乳類が確認された。ツキノワグマは [REDACTED] のほか、[REDACTED] でも確認された。</li> <li>[REDACTED] では、[REDACTED] でアズマモグラやハクビシン、[REDACTED] では採餌するヒナコウモリ科が確認された。</li> <li>[REDACTED] 及び [REDACTED] の両環境では、イノシシやタヌキ、キツネといった雑食性の哺乳類が確認された。</li> <li>東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲は現況調査時と比較して縮小したものの、16 種のうち 15 種は現況調査と重複しており、哺乳類相に大きな変化はみられなかった。</li> </ul>

表 8.7-3 確認種一覧（動物相：哺乳類）※1

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	モグラ(食虫)	モグラ	ヒミズ <sup>*</sup>	<i>Urotrichus talpoides</i>	○		
2			アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	○	○	
3	コウモリ(翼手)	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科1 <sup>※2</sup>	<i>Vespertilionidae sp. 1</i>	○	○	○
4			ヒナコウモリ科2 <sup>※3</sup>	<i>Vespertilionidae sp. 2</i>	○	○	
5	ウサギ	ウサギ	ノウサギ <sup>*</sup>	<i>Lepus brachyrurus</i>	○	○	
6	ネズミ(齧歯)	リス	ニホンリス	<i>Sciurus liss</i>	○	○	
7			ムサビ <sup>*</sup>	<i>Petaurista leucogenys</i>	○	○	○
8		ネズミ	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○	○	
9			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>		○	○
10	ね(食肉)	クマ	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus japonicus</i>	○	○	○
11		仔	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	○
12			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○	○	
13		イタチ	テン	<i>Martes melampus</i>	○	○	○
14			イタチ	<i>Mustela itatsi</i>	○	○	○
15		ジヤコウね	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	○	○	
16	カツ(偶蹄)	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○	○	
17		ウシ	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	○	○	○
合計	6目	11科	17種	-	16種	16種	8種

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に準拠した。

※2：ヒナコウモリ科1は、確認した周波数のピーク(20~25kHz)やバットディテクターの入感音、確認環境や分布情報等よりヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。

同科のヒナコウモリ科2とは別種である可能性が高いため、種数の合計には計上する。

※3：ヒナコウモリ科2は、確認した周波数のピークが「40~50kHz」であった。ヤマコウモリやヒナコウモリを除く、多くのヒナコウモリ科の周波数は「40~50kHz」を含むため、種を推定することは困難である。

但し、同科のヒナコウモリ科1とは別種である可能性が高いため、種数の合計には計上する。

## ② 鳥類

### a) 一般鳥類

一般鳥類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-4、現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-5(1)～(3)に示すとおりである。

表 8.7-4 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：一般鳥類)\*

	予測結果	事後調査結果
確認種数	81 種(現況調査)	77 種
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地の改変は対象事業計画地のほぼ全域にわたって行われることから、樹林を生息環境とする樹林性鳥類の生息環境は減少・消失するほか、これら小鳥類を餌としているオオタカ等の猛禽類についても間接的に採餌環境が悪化する。また、重機の稼動による騒音・振動の影響が繁殖環境を悪化させることも考えられる。しかし、対象事業計画地の北側から北西側にかけて、対象事業計画地と同様の樹林環境が広がっていることから、鳥類は移動能力が高い分類群でもあり、造成工事の初期段階において、周辺地域へ逃避して生息すると考えられる。</li> <li>・モズやウグイス、ホオジロ等の草地性鳥類が生息する [REDACTED] はほとんど改変されないことから、これら草地性鳥類への事業の影響は極めて小さいと考えられる。ただし、資材の運搬や重機の稼動による騒音・振動によって周辺地域への逃避も考えられるが、逃避が起こったとしても馴化により一時的なものであると考えられる。</li> <li>・カモ類やサギ類等が採餌や休息に利用するため池の多くは、土地の改変により減少・消失する。しかし、これらの種は移動能力が高く、また、ため池のみに依存している種ではないことから、造成工事の初期段階において、周辺地域へ逃避して生息すると考えられる。</li> <li>・セキレイ類やカワガラス等の生息環境である河川は、一部、工事の実施により濁水が流入する可能性も考えられるが、濁水の発生は一時的なものであり、また、仮設調整池を設置することで濁水の流入は最小限に抑えられるため、これら流水性鳥類の生息に与える影響は小さいと考えられる。</li> <li>・スズメやツバメ、カラス類等の人為的環境に生息する種は、工事后に増加する住宅地や公園緑地を生息環境の一部として利用すると考えられる。</li> <li>・以上より、工事による影響としては、樹林性鳥類の生息環境の消失や減少等が考えられるが、周辺地域に存在する同様の樹林環境に逃避して生息するものと考えられる。一方、草地性鳥類はその生息環境が改変されないことから、影響は極めて小さいと考えられる。また、河川に生息する水域性鳥類は、濁水による一時的な影響を受けると考えられる。存在による影響としては、周辺地域に逃避すると考えられるが、都市環境を好む種が増加し、使用後の公園・緑地等を利用する種も増加する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[REDACTED] では、コゲラやアカゲラ、アオゲラといったキツツキ類、サンコウチョウ、カケス、コガラやヤマガラ、ヒガラ等のカラ類のほか、ヤブサメ、ミソサザイ、キビタキ等の樹林性の鳥類が確認された。</li> <li>・[REDACTED] ではキジやヒバリ、ツバメ、ノビタキ、スズメ等が確認されている。このうち、ツバメやスズメ等の [REDACTED] においても確認されている。</li> <li>・その他、[REDACTED] ではコハクチョウやオシドリ、カルガモといったカモ類、ダイサギやアオサギ等のサギ類のほか、カワセミ等が確認された。</li> <li>・なお、ハシブトガラスやハシボソガラスは樹林から草地、人為環境までの多様な環境で多数確認された。</li> <li>・東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲は現況調査時と比較して縮小したものとの、顕著な確認種数の減少はみられなかった。</li> </ul>

\*：現況調査、事後調査のいずれも、鳥類相調査とは別に実施した猛禽類調査時の確認を含む。

表 8.7-5(1) 確認種一覧（動物相：一般鳥類）※1(1/3)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	キジ	キジ	ヤマトリ	<i>Syrmaticus soemmerringii</i>	○	○	○
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○	
3			コジゴケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>		○	
4	カモ	カモ	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	○	○	
5			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	○	○	
6			オントリ	<i>Aix galericulata</i>		○	○
7			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	
8			カムカモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	
9			オカガモ	<i>Anas acuta</i>	○	○	
10			コガモ	<i>Anas crecca</i>		○	
11			ホシハシロ	<i>Aythya ferina</i>		○	
12	カツブリ	カツブリ	カツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		○	○
13	ハト	ハト	キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	
14			アオハト	<i>Treron sieboldii</i>	○		
15	カツオトリ	ウ	カツウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	
16	ペリカン	サギ	コイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	
17			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	
18			タイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	
19			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○		○
20	ツル	クサ	オオバン	<i>Fulica atra</i>		○	○
21	カツコウ	カツコウ	ホトキニス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○		○
22	ヨカカ	ヨカカ	ヨカカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		○	○
23	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	○		
24	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		○	
25	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○ <sup>※2</sup>	○
26	鷹	鷹	ハチカラ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○ <sup>※2</sup>	○
27			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	
28			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○ <sup>※2</sup>	○ <sup>※2</sup>	○
29			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○ <sup>※2</sup>	○
30			サシハ	<i>Butastur indicus</i>	○	○	○
31			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○	○
32			クサタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	○ <sup>※2</sup>		○
33	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○		○
34	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○
35			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	○		○
36	キツツキ	キツツキ	コケラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	
37			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○	○
38			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○
39	ハヤブサ	ハヤブサ	ショウケンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>		○	○
40			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○ <sup>※2</sup>	○
41	スズメ	サンショウウイ	サンショウウイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○
42		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	
43		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○
44		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 2012年）に準拠した。

※2：一般鳥類事後調査とは別途実施した猛禽類調査時に確認された種である。

表 8.7-5(2) 確認種一覧（動物相：一般鳥類）※1(2/3)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
45	スズメ	カラス	オガ	<i>Cyanopica cyanaus</i>	○	○	
46			ミヤマカラス	<i>Corvus frugilegus</i>	○		
47			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	
48			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	
49	キイタダキ		キイタダキ	<i>Regulus regulus</i>		○	
50		シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	○	○	
51			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	
52			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○	
53			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	
54	ヒバリ	ヒバリ		<i>Alauda arvensis</i>		○	○
55	ツバメ	ツバメ		<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○
56	ヒヨドリ	ヒヨドリ		<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	
57	ウグイス	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>	○	○	○
58		ヤブサメ	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○	
59	エナガ		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	
60	ムシクイ	エゾムシクイ		<i>Phylloscopus borealisoides</i>	○		
61		センダイムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○	○
62	メジロ		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	
63	ヨシキリ	オオヨシキリ		<i>Acrocephalus orientalis</i>	○		○
64	コジュウカラ	コジュウカラ		<i>Sitta europaea</i>	○	○	○
65	ミツササギ	ミツササギ		<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○	
66	ムクドリ	ムクドリ		<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	
67	カワカラス	カワカラス		<i>Cinclus pallasii</i>	○		○
68		ヒタキ	トラツクツミ	<i>Zoothera dauma</i>		○	○
69			クロツクツミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○	○
70			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○		○
71			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○		
72			ツケミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	
73			コルリ	<i>Luscinia cyanene</i>	○		○
74			ショウビツキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>		○	
75			ハビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	○	○	
76			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>		○	
77			コサヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○		○
78			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○	○
79			オルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○		○
80	スズメ	スズメ		<i>Passer montanus</i>	○	○	
81		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○
82			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	
83			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○
84			ヒンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	
85		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○		
86			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	
87			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○	
88			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	○	○	

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 2012年）に準拠した。

※2：一般鳥類事後調査とは別途実施した猛禽類調査時に確認された種である。

表 8.7-5(3) 確認種一覧（動物相：一般鳥類）※1(3/3)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
89	スズメ	アトリ	イヌカ	<i>Loxia curvirostra</i>	○		
90			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	
91			カカル	<i>Eophona personata</i>	○	○	
92		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○
93			カシラタカ	<i>Emberiza rustica</i>	○	○	
94			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	○
95			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	○		
96		チメドリ	カヒヂョウ	<i>Garrulax canorus</i>	○	○	
合計	17目	41科	96種	-	81種	77種	42種

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。

※2：一般鳥類事後調査とは別途実施した猛禽類調査時に確認された種である。

## b) 猛禽類

猛禽類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-6, 現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-7 に示すとおりである。

表 8.7-6 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：猛禽類)

	予測結果	事後調査結果
確認種数	10 種(現況調査)	10 種
評価	<p>・現地調査では、2 目 3 科 10 種の猛禽類が確認された。確認種のうち、[REDACTED] でオオタカ及びノスリの [REDACTED] した。平成 25 年繁殖期に [REDACTED] は、[REDACTED] [REDACTED] しているため、資材の運搬等による工事用車両の走行や重機の稼動に伴う騒音・振動が繁殖阻害要因になると考えられたが、[REDACTED] は平成 26 年繁殖期に落巣した。平成 26 年繁殖期に使用した [REDACTED] は、資材の運搬等による車両の運行や、重機の稼動に伴う騒音・振動が繁殖阻害要因になる可能性も考えられる。しかし、[REDACTED] [REDACTED] ことや馴化する可能性も考えられることから一時的な影響であると考えられ、その影響は小さいと予測する。ノスリについては、[REDACTED] [REDACTED] 以上あるため、工事の実施による影響は極めて小さいと考えられる。他の猛禽類については、対象事業計画地周辺で繁殖は確認されていない。</p> <p>・[REDACTED] を採餌場として利用している種は、オオタカ及びノスリ、サシバであった。そのため、工事中は資材の運搬や重機の稼動、切土・盛土・掘削等、供用後は地形の改変等により、餌となる小型哺乳類や鳥類、両生爬虫類等が周辺へ逃避することに伴い、これら猛禽類も周辺へ移動するものと考えられる。また、採餌環境が悪化した場合、それに伴って営巣地を変える可能性も生じると考えられる。</p> <p>・以上より、オオタカの繁殖について、平成 26 年度繁殖期と同じ [REDACTED] [REDACTED] で継続して繁殖する場合は、営巣地と工事箇所との離隔が比較的大きいため、工事による影響は小さいと考えられる。猛禽類の採餌については、一部の種が工事の影響により、採餌場所の移動等が生じる可能性がある。また、それに伴い、営巣地の変更の可能性も生じると考えられる。存在の影響として、採餌環境等が減少するが、対象事業計画地周辺に同様の環境が広がっているから、個体群の存続は可能と考えられる。</p>	<p>・定点調査で確認された猛禽類はミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサの 2 目 3 科 10 種であった。最も多く確認された種はノスリ（93 回）、次いでオオタカ（48 回）、ハチクマ（40 回）であった。</p> <p>・また、林内踏査（繁殖状況確認）で新たに確認された [REDACTED] は [REDACTED] であり、[REDACTED] していた。H31-1 ではオオタカ、H31-2 ではハチクマの営巣を確認した。</p> <p>・オオタカは途中で繁殖を中断したものの、ハチクマは繁殖を成功させた。</p> <p>・東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲は現況調査時と比較して縮小したものとの、10 種のうち 8 種は現況調査と重複しており、猛禽類の出現状況に大きな変化はみられなかった。</p>

表 8.7-7 確認種一覧（動物相：猛禽類）※1, 2

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○
2			ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	○	○	○
3			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○	○
4			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	○
5			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○	○
6			サシバ	<i>Buteastur indicus</i>	○	○	○
7			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○	○
8			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	○		○
9	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○	○
10			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	○		
11			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>		○	○
12			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○	○
合計	17目	41科	96種	-	10種	10種	11種

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012年)に準拠した。

※2：タカ目タカ科トビ(*Milvus migrans*)は調査対象外とした。

### ③ 爬虫類

爬虫類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-8 に、現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-9 に示すとおりである。

表 8.7-8 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：爬虫類)

確認種数	予測結果	事後調査結果
	7 種(現況調査)	4 種
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査では、1 目 3 科 7 種の爬虫類が確認された。確認種は、ニホンマムシやジムグリ等の樹林を主な生息環境とする種、ニホンカナヘビやアオダイショウのように多様な環境を利用する種、シマヘビのように平野部の農耕地を生息環境とする種に分けられる。</li> <li>土地の改変は対象事業計画地のほぼ全域にわたって行われることから、樹林を生息環境とするニホンマムシやジムグリ等の生息環境は減少・消失する。しかし、対象事業計画地の北側から北西側にかけて、対象事業計画地と同様の樹林環境が広がっていることから、造成工事の初期段階において、周辺地域へ逃避すると考えられる。また、樹林から草地、人工地までの多様な環境を利用するニホンカナヘビやアオダイショウ等についても、土地の改変により生息環境の一部が減少する。しかし、多様な環境に生息可能で生態的可塑性の高いこれらの種は、資材等の運搬、重機の稼動や切土・盛土・掘削等により、対象事業計画地から一旦は逃避すると考えられるが、民家周辺においても生息可能であるため、供用後においては一般住宅の庭先や公園・緑地等を生活の場の一部として利用する可能性がある。したがって、ニホンカナヘビやアオダイショウへ与える事業の影響は小さいと考えられる。</li> <li>シマヘビが主に生息する、平野部の農耕地や草地はほとんど改変されない。現地調査においてもシマヘビは改変区域内で確認されていないことから、このような草地に生息する爬虫類への事業の影響は極めて小さいと考えられる。</li> <li>以上より、工事による影響としては、樹林に生息する爬虫類の生息環境の消失等が考えられるが、周辺地域に広く存在する樹林に逃避して生息すると考えられる。その他の種は、生態的可塑性が高いことや主要な生息環境が改変されないことから、影響は小さいと考えられる。存在による影響としては、周辺地域に逃避すると考えられるが、使用後の一般住宅や公園・緑地で生息が可能な種もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ではニホンカナヘビ、■ではニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシが確認された。また、シマヘビは■でも確認された。</li> <li>東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲は現況調査時と比較して縮小したものの、顕著な確認種数の減少はみられなかった。</li> </ul>

表 8.7-9 確認種一覧（動物相：爬虫類）※

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	有鱗	カナヘビ*	ニホンカナヘビ*	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	○	○
2		ナガヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○	
3			アオダマシヨウ	<i>Elaphe climacophora</i>	○	○	○
4			シマムグッリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	○		○
5			ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>	○		○
6			ヤマカニシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	○	○	○
7		クサリヘビ*	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	○		○
合計	1目	3科	7種	-	7種	4種	6種

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2019年）に準拠した。

#### ④ 両生類

両生類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-10 に、現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-11 に示すとおりである。

表 8.7-10 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：両生類)

確認種数	予測結果	事後調査結果
	11 種(現況調査)	12 種
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査では、2 目 6 科 11 種の両生類が確認された。確認種は、トウホクサンショウウオやクロサンショウウオ、タゴガエル等の樹林を主な生息環境とする種、ニホンアカガエルやシュレーゲルアオガエルのように平野部の水田で繁殖し、成体の生息環境として樹林を利用する種、アカハライモリやトウキョウダルマガエルのように平野部の水田及びその周辺の水路を生息環境とする種、平野部から丘陵地まで生息するが、水域環境に依存するツチガエルやウシガエル等に分けられる。</li> <li>土地の改変は対象事業計画地のほぼ全域にわたって行われることから、樹林を生息環境とするトウホクサンショウウオやクロサンショウウオ、タゴガエル等の生息環境は減少・消失する。タゴガエルについては、比較的、移動能力が高いため、対象事業計画地の [REDACTED] へ逃避し、生息するものと考えられる。一方、トウホクサンショウウオやクロサンショウウオは、移動能力が低く、逃避できない可能性も考えられ、事業の実施がサンショウウオ類の生息に影響を与えると考えられる。</li> <li>丘陵の樹林及び平野部の草地を利用するニホンアカガエル及びシュレーゲルアオガエルについて、いずれの種も平野部の草地環境のみで生活史を送ることができる。事業の実施により樹林の生息環境が減少・消失しても、改変されない草地へ逃避し、そのまま草地で生息可能であることから、工事の実施による影響は小さいと考えられる。</li> <li>アカハライモリやトウキョウダルマガエルが主に生息する、平野部の水田やその周辺の水路はほとんど改変されない。したがって、平野部の草地環境に生息する両生類への事業の影響は極めて小さいと考えられる。</li> <li>ツチガエルやウシガエルは、丘陵地及び平野部のため池や河川が主な生息環境であるが、その内、丘陵部に位置するため池は改変により大部分が消失する。しかしながら、平野部の改変されない場所においても、ツチガエルやウシガエルが生息可能なため池や河川が存在しているため、造成工事の初期段階において、周辺地域のため池や河川に逃避して生息すると考えられる。</li> <li>以上より、工事による影響としては、一部の移動能力の低い樹林性両生類は生息環境の減少・消失の影響を受けるが、大部分の種については、生態的可塑性が高いことや主要な生息環境が改変されないことから、影響は小さいと考えられる。存在による影響としては、周辺地域に逃避すると考えられるが、ツチガエルのように造成される新しいため池等に生息可能な種もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[REDACTED] では、トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、サンショウウオ属といったサンショウウオ類のほか、アズマヒキガエルやモリアオガエルが確認された。確認位置として、トウホクサンショウウオやサンショウウオ属は [REDACTED] で、クロサンショウウオは [REDACTED] で、アズマヒキガエルは [REDACTED] で、モリアオガエルは [REDACTED] での確認であった。</li> <li>[REDACTED] ではトウキョウダルマガエルが確認され、繁殖のための鳴き声も確認された。</li> <li>[REDACTED] と [REDACTED] の両環境では、アカハライモリやニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエルが確認された。ニホンアマガエルやニホンアカガエルのいずれも [REDACTED] での確認が多かったのに対し、タゴガエルは樹 [REDACTED] での確認が多く、繁殖のための鳴き声も確認された。</li> <li>平野部において、[REDACTED] でウシガエルが確認された。</li> <li>東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲は現況調査時と比較して縮小したもの、12 種のうち 11 種は現況調査と重複しており、両生類相に大きな変化はみられなかった。</li> </ul>

表 8.7-11 確認種一覧（動物相：両生類）※1

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	<i>Hynobius lichenatus</i>	○	○	○
2			クロサンショウウオ	<i>Hynobius nigrescens</i>	○	○	○
3		サンショウウオ属 <sup>※2</sup>		<i>Hynobius</i> sp.	○	○	○
4	無尾	イモリ	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	○	○	○
5		ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	○	○	○
6		アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	○	○	○
7		アカガエル	タコガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	○	○	○
8			ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	○	○	○
9			トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	○	○	○
10		ウシガエル		<i>Lithobates catesbeianus</i>	○	○	
11		ツチガエル		<i>Glandirana rugosa</i>	○	○	○
12		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	○	○	○
			モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>		○	○
合計	2目	6科	12種	-	11種	12種	11種

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に準拠した。

※2：サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが、同定形質が不明瞭な幼生のみの確認であり、種を特定するには至らなかった。

トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオが確認されている場合は、種数合計に計上しない。

## ⑤ 昆虫類

昆虫類に係る予測結果と事後調査結果の比較は表 8.7-12 に、現況調査と事後調査で確認された確認種一覧は表 8.7-13(1)～(29)に示すとおりである。

表 8.7-12 予測結果と事後調査結果の比較(動物相：昆虫類)

	予測結果	事後調査結果
確認種数	1, 018 種(現況調査)	590 種
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査では、17 目 209 科 1018 種の昆虫類が確認された。確認種数が多いことから、その生息環境も多様であり、また、移動能力についても差異がある。</li> <li>土地の改変は対象事業計画地のほぼ全域にわたって行われることから、樹林環境に生息するセミ類や樹林内の沢に生息するトンボ類については、生息環境が減少・消失し、個体数も減少する。しかし、対象事業計画地の北側から北西側にかけて、対象事業計画地と同様な樹林環境が広がっていることから、造成工事の初期の段階において、セミ類やトンボ類等の移動能力のある種については、周辺地域に逃避すると考えられる。一方、ゴミムシ類等の移動能力の低い種については、対象事業計画地内の生息個体群は影響を受けると考えられる。</li> <li>草本を食性とするチョウ類やバッタ類等が生息している平野部の草地環境はほとんど改変されないため、これら草地性昆虫類へ与える事業の影響は極めて小さいと考えられる。また、これらの草地に生息する昆虫類は、民家周辺においても生息可能であるため、供用後においては、一般住宅の庭先や公園・緑地等を生息場所の一部として利用すると考えられる。</li> <li>以上より、工事による影響としては、樹林性の移動能力が低い種は生息環境や生息個体群の消失等も想定されるが、一部の移動能力の高い種については、周辺地域に広く存在する樹林に逃避して生息すると考えられる。草地性の種は、生息環境が改変されないことから、影響は極めて小さいと考えられる。存在による影響としては、周辺地域に逃避すると考えられるが、草地性の種の中には一般住宅や公園・緑地等で生息が可能な種もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■では、マガタマハンミョウ、カナブン、カブトムシなどのコウチュウ類やムネアカオオアリ、オオスズメバチなどのハチ類が確認された。</li> <li>■でハラビロトンボ、シオヤトンボ、オオシオカラトンボなどのトンボ類やオオコオイムシ、コシマゲンゴロウなどの水生昆虫が、畑地や畦等の草地環境ではオナガササキリ、コバネイナゴなどのバッタ類やイネホソミドリカスミカメ、ツマジロカメムシなどのカメムシ類、ベニシジミ、キタテハなどのチョウ類が確認された。</li> <li>季節別では、春季にはツマキアオジョウカイモドキ、モモブトカミキリモドキが花に集まっていた。初夏季にはゲンジボタルやヘイケボタルが ■を飛翔し、夏季には樹林内でニイニイゼミ、ヒグラシが鳴き、カブトムシ、コガタスズメバチが樹液に集まっていた。秋季には草地でコバネササキリやエンマコオロギの鳴き声が聞こえ、またそれらを捕食するオオカマキリも見られた。</li> <li>なお、冬季の哺乳類調査時には、 ■でオオムラサキ及びゴマダラチョウの幼虫が越冬していた。</li> <li>東工区と中央・西工区の分割施工に伴い、事後調査範囲が縮小したこと、東工区改変区域内の伐採に伴いガ類及びコウチュウ類などの樹林性昆虫類の減少した。</li> </ul>

表 8.7-13(1) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(1/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
1	イシミ	イシミ	Pedetontus属	<i>Pedetontus</i> sp.	○		
2	カゲロウ(蜉蝣)	モンカゲロウ	フタシミモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>		○	
3			モンカゲロウ	<i>Ephemera strigata</i>	○		
4	トンボ(蜻蛉)	アオイトンボ	ホソミオツネトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	○		
5			オオアイトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	○	○	
6			オツネントンボ	<i>Sympetrum paedisca</i>	○	○	
7		イトトンボ	キイトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i>	○	○	
8			オゼイトンボ	<i>Coenagrion terreum</i>	○		
9			アシアイトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	○	○	
10			オオイトンボ	<i>Paracercion sieboldii</i>	○		
11		モノサシトンボ	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	○	○	
12		カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>	○	○	
13			ミヤカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>	○		
14			ニボンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	○	○	
15		ヤンマ	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna crenata</i>	○	○	
16			クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	○		
17			キジンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	○		
18			ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei milnei</i>	○	○	
19		サナエトンボ	タヒビトサナエ	<i>Davidius nanus</i>	○		
20			ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujiacus</i>	○		
21			コエナヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>	○		
22			コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>	○	○	
23		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	○	○	
24		エゾトンボ	オオヤマトンボ	<i>Epophthalmia elegans</i>	○		
25			タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	○		
26		トンボ	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>		○	
27			ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastera</i>	○	○	
28			シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	○	○	
29			シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	○	○	
30			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>	○	○	
31			ウスベキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	○		
32			コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	○	○	
33			マユタケアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	○	○	○
34			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	○	○	○
35			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	○	○	○
36			マイコアカネ	<i>Sympetrum kunckeli</i>	○	○	○
37			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	○	○	
38			リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	○		
39	カマキリ(螳螂)	カマキリ	コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>	○	○	
40			オカマキリ	<i>Tenodera sinensis</i>	○	○	
41	シロアリ	ミゾカガシラシロアリ	ヤマシロアリ	<i>Reticulitermes speratus speratus</i>		○	
42	ハサミムシ(革翅)	タキヌキハサミムシ	クギヌキハサミムシ	<i>Forficula scudderii</i>	○	○	
43	カワゲラ(セキ翅)	オサカワゲラ	ネモウラ属	<i>Nemoura</i> sp.		○	
			オサカワゲラ科	<i>Nemouridae</i> sp.	○		

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(2) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(2/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
44	カワゲラ(セキ翅)	アミカワゲラ	アミカワゲラ科	Perlodidae sp.	○		
45	バッタ(直翅)	コロギス	ハネシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>	○	○	
46		ツユムシ	セスグツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>	○	○	
47			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	○		
48			アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>	○		
49			ヘリグロツユムシ	<i>Psyrana japonica</i>	○		
50			コバネサキス	<i>Chizuella bonneti</i>		○	
51		キリキリス	ウスイロササキ	<i>Conocephalus chinensis</i>	○		
52			オナガササキ	<i>Conocephalus exemptus</i>	○	○	
53			コバネササキ	<i>Conocephalus japonicus</i>	○	○	
54			ササキ	<i>Conocephalus melaenus</i>	○	○	
55			コバネササキモドキ	<i>Cosmetura fenestrata</i>	○		
56			ヒメギス	<i>Eobiana engelhardtii subtropica</i>	○	○	
57			ハヤシノウマオイ	<i>Hexacentrus hareyamai</i>	○		
58			ヒメサキ	<i>Ruspolia dubia</i>	○		
59			クサギ	<i>Ruspolia lineosa</i>	○		
60			Tettigonia属	<i>Tettigonia</i> sp.	○		
61		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>		○	
62		マツムシ	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>	○	○	
63			タングボカムロコロキ	<i>Loxoblemmus aomoriensis</i>	○	○	
64			バラカムロコロキ	<i>Loxoblemmus campestris</i>	○	○	
65			モリカムロコロキ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>	○		
66			エンマコロキ	<i>Teleogryllus emma</i>	○	○	
67			ツツレサセコロキ	<i>Velarifictorus micado</i>	○		
68		ヒハリモドキ	マダラズス	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>	○	○	
69			ヤマトイハリ	<i>Homoeoxiphia obliterate</i>	○		
70			シハズス	<i>Polionemobius mikado</i>	○	○	
71			ヤチスス	<i>Pteronemobius ohmachii</i>	○		
72			エゾスス	<i>Pteronemobius yezoensis</i>	○		
73			クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>	○		
74			キアンヒハリモドキ	<i>Trigonidium japonicum</i>	○	○	
75		バッタ	ショウリヨウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	○	○	
76			ヒナバッタ	<i>Glyptothorax maritimus maritimus</i>	○		
77			トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>	○	○	
78			ナキイゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>		○	
79			クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>	○	○	
80			ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>	○		
81		けコ	コバネけコ	<i>Oxya yezoensis</i>	○	○	
82			ミカドフキバッタ	<i>Parapodisma mikado</i>	○		
83			ヤマツキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i>	○		
84		オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	○	○	
85		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	<i>Criotettix japonicus</i>	○	○	
86			ベニカヒシバッタ	<i>Euparatettix insularis</i>	○		
87			コバネヒシバッタ	<i>Formosatettix larvatus</i>	○	○	

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(3) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(3/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
88	バッタ(直翅)	ヒシバッタ	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	○		
89	チャタテムシ	ホリチャタテ	ハグルマチャタテ	<i>Matsumuraiella rapiopicta</i>	○		
90			ホリチャタテ	<i>Stenopsocus aphidiformis</i>	○		
91		ケブカチャタテ	ウスベニチャタテ	<i>Amphipsocus rubrostigma</i>	○		
92		チャタテ	チャタテ科	<i>Psocidae sp.</i>	○		
93	カムシ(半翅)	ヒシウンカ	チャヨロヒシウンカ	<i>Cixius towadensis</i>	○		
94			ヨスジヒシウンカ	<i>Reptalus quadricinctus</i>		○	
95		ウンカ	ヒゲフトウンカ	<i>Delphax maritimus</i>	○		
96			タケウンカ	<i>Epeurus nawaii</i>	○		
97			ホミドリウンカ	<i>Saccharosydne procerus</i>	○		
98			エゾナガウンカ	<i>Stenocranus matsumurai</i>	○		
99		ハネカウンカ	アカハネカウンカ	<i>Diostrombus politus</i>	○		
100		アオハコロモ	アオハコロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	○	○	
101		ハコロモ	ハコロモ	<i>Orosanga japonicus</i>	○	○	
102		セミ	エゾセミ	<i>Auritibicen japonicus</i>	○		○
103			アフテセミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	○		
104			シミセミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>	○		
105			ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	○		
106			ニ仁イセミ	<i>Platycleura kaempferi</i>	○	○	
107			ヒゲラン	<i>Tanna japonensis</i>	○	○	
108			ツノセミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>	○	○	
109	アワキムシ	シロオニアワキ	<i>Aphrophora intermedia</i>	○	○		
110		マエキアワキ	<i>Aphrophora pectoralis</i>	○			
111		ホシアワキ	<i>Aphrophora stictica</i>		○		
112		クロスジアワキ	<i>Aphrophora vittata</i>	○	○		
113		マダラアワキ	<i>Awafukia nawaee</i>	○	○		
114		オカダアワキ	<i>Lepyronia okadae</i>	○			
115		Peuceptyelus属	<i>Peuceptyelus sp.</i>	○	○		
116		コカシラアワキムシ	<i>Eoscarta assimilis</i>	○	○		
117		トゲアワキムシ	<i>Hindoloides bipunctata</i>		○		
118	ヨコバエイ	ミドリカスリヨコバエイ	<i>Balclutha incisa</i>	○			
119		ツマグロオオヨコバエイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>	○	○		
120		オオヨコバエイ	<i>Cicadella viridis</i>	○	○		
121		ウズブチャヤヨコバエイ	<i>Drabescus pallidus</i>	○			
122		シロヒメヨコバエイ	<i>Eurhadina betularia</i>		○		
123		クスサシヨコバエイ	<i>Favintiga camphorae</i>		○		
124		フタスジトガリヨコバエイ	<i>Futasujinus candidus</i>	○			
125		Handianus属	<i>Handianus sp.</i>	○			
126		ヒシモンヨコバエイ	<i>Hishimonus sellatus</i>		○		
127		シタヨコバエイ	<i>Japanagallia pteridis</i>		○		
128		マエシオオヨコバエイ	<i>Kolla atramentaria</i>	○	○		
129		コミミズク	<i>Ledropsis discolor</i>		○		
130		ムツテンウスハヨコバエイ	<i>Macrosteles nabiae</i>		○		
131		オビヒメヨコバエイ	<i>Naratettix zonatus</i>		○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(4) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(4/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
132	カムシ(半翅)	ヨコハミ	ツマグロヨコハミ	<i>Nephrotettix cincticeps</i>		○	
133			オヌキヨコハミ	<i>Onukia onukii</i>	○		
134			クロヒラタヨコハミ	<i>Penthimia nitida</i>	○		
135			ズキンヨコハミ	<i>Podulmorinus vitticollis</i>	○	○	
136			シラホシスカシヨコハミ	<i>Scaphoideus festivus</i>	○		
137			イヌヒラタヨコハミ	<i>Stroggylocephalus agrestis</i>	○		
138			Typhlocyba属	<i>Typhlocyba</i> sp.	○		
			ヨコハミ科	<i>Cicadellidae</i> sp.	○		
139	キヅラミ		ネグロキヅラミ	<i>Petalolytma bicolor</i>	○		
140			ヘニキヅラミ	<i>Psylla coccinea</i>	○		
141	サシガメ		アカヘリサシガメ	<i>Rhynocoris rubromarginatus</i>		○	
142			シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>		○	
143			ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i>	○	○	
144	ゲンハムシ		ヒゲブトケンハミ	<i>Copium japonicum</i>		○	
145			アワタチソウケンハミ	<i>Corythucha marmorata</i>	○	○	
146	カスミカメムシ		ナカゲロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>	○		
			Adelphocoris属	<i>Adelphocoris</i> sp.		○	
147			ツマグロアカスミカメ	<i>Apolygus spinolae</i>		○	
			Apolygus属	<i>Apolygus</i> sp.	○		
148			ヒメセダカカスミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>	○		
149			マダラカスミカメ	<i>Cyphodemidea saundersi</i>	○		
150			メンガカカスミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>	○	○	
151			ズアカシカカスミカメ	<i>Monalocoris filicis</i>		○	
152			クロマルカカスミカメ	<i>Orthocephalus funestus</i>		○	
153			ヒヨウタンカカスミカメ	<i>Pilophorus setulosus</i>	○		
154			フタトケムキカカスミカメ	<i>Stenodema calcarata</i>	○	○	
155			アカスジカカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>	○	○	
156			イヌホソドリカカスミカメ	<i>Trigonotylus caelestialium</i>		○	
157	マキハサシガメ	コハネマキハサシガメ	<i>Nabis apicalis</i>	○	○		
158	ヒラタカムシ	トビロコヒラタカムシ	<i>Neuroctenus castaneus</i>	○			
159		イボヒラタカムシ	<i>Usingerida verrucigera</i>			○	
160	ホリヘリカムシ	ホリヘリカムシ	<i>Riptortus pedestris</i>	○	○		
161	ヘルカムシ	ヘルカムシ	<i>Cletus schmidti</i>	○			
162		ホンハラビロヘルカムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	○	○		
163		オオツマキヘルカムシ	<i>Hygia lativentris</i>	○			
164		キバーラヘルカムシ	<i>Plinachtus bicoloripes</i>			○	
165	ヒメヘルカムシ	アカヒメヘルカムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>	○	○		
166		コブチヒメヘルカムシ	<i>Stictopleurus minutus</i>			○	
		ヒメヘルカムシ科	<i>Rhopalidae</i> sp.	○			
167	ナガカムシ	ヒヨウタンナガカムシ	<i>Caridops albomarginatus</i>	○	○		
168		ヒメヒラタナガカムシ	<i>Cymus aurescens</i>			○	
169		ニッポソコバヌカムシ	<i>Dimorphopterus japonicus</i>	○			
170		コバヌカムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>	○			
171		オオバヌカムシ	<i>Geocoris varius</i>	○	○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(5) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(5/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種	
172	カムシ(半翅)	ナガカムシ	キベリヒヨウタンナガカムシ	<i>Horridipamera lateralis</i>	○			
173			ヒメカカムシ	<i>Nysius plebeius</i>	○	○		
			Nysius属	<i>Nysius sp.</i>	○			
174			ヒラヒヨウタンナガカムシ	<i>Pachybrachius luridus</i>		○		
175			ヒゲナガカムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	○	○		
176			クロスジヒゲナガカムシ	<i>Pachygrontha similis</i>		○		
177			シロヘリナガカムシ	<i>Panaorus japonicus</i>	○			
178			チャモンナガカムシ	<i>Paradieuches dissimilis</i>	○			
179			コカシラコハネカカムシ	<i>Pirkimerus japonicus</i>	○	○		
180			ムラサキナガカムシ	<i>Pylogrus colon</i>	○			
181			コバネヒヨウタンナガカムシ	<i>Togo hemipterus</i>	○			
182	メダカナガカムシ		メダカナガカムシ	<i>Chauliops fallax</i>	○	○		
183	ツノカムシ		ヒツノカムシ	<i>Elasmucha putoni</i>	○			
184			エサキモニツノカムシ	<i>Sastragala esakii</i>	○	○		
185			ミツボシツチカムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	○	○		
186	ツチカムシ		ツチカムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>		○		
187			マルツチカムシ	<i>Microporus nigrita</i>		○		
188			ウズラカムシ	<i>Aelia fiebri</i>		○		
189	カムシ		シロヘリカムシ	<i>Aenaria lewisi</i>	○			
190			トゲカムシ	<i>Carbula abbreviata</i>	○			
191			トビイロカムシ	<i>Caystrus depressus</i>	○			
192			ブチヒゲカムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>	○	○		
193			ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>	○	○		
194			トゲシラホシカムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i>		○		
195			オオトゲシラホシカムシ	<i>Eysarcoris lewisi</i>	○	○		
196			エビイロカムシ	<i>Gonopsis affinis</i>	○			
197			クサキカムシ	<i>Halymorpha halys</i>		○		
198			ヨツボシカムシ	<i>Homalognonia obtusa</i>	○			
199			ナカボシカムシ	<i>Menida musiva</i>		○		
200			スコットカムシ	<i>Menida disjecta</i>	○			
201			ツマジロカムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○		
202			アオクサカムシ	<i>Nezara antennata</i>	○	○		
203			エゾアオカムシ	<i>Palomena angulosa</i>	○			
204	マルカムシ		ツアカムシ	<i>Pentatomia japonica</i>	○			
205			オオクチブトカムシ	<i>Picromerus bidens</i>		○		
206			クチブトカムシ	<i>Picromerus lewisi</i>		○		
207			チャバヌアカムシ	<i>Plautia stali</i>	○	○		
208			ヒメマルカムシ	<i>Coptosoma biguttulum</i>	○			
209			マルカムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	○	○		
210			キンカムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>		○		
211	アメンボ		オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	○	○		
212			アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	○	○		
213			ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabdominis</i>	○	○		
214			ハメアメンボ	<i>Gerris nepalensis</i>	○			

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(6) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(6/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
215	カヌムシ(半翅)	アメンボ	コセアカアメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>	○	○	
216			ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>	○	○	
217			シマゲメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	○		
218		ミズムシ(昆)	ハラケ <sup>レ</sup> コミズムシ	<i>Sigara nigroventralis</i>	○	○	
219		メミズムシ	メミズムシ	<i>Ochtherus marginatus</i>		○	
220		コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	○		○
221			オコオイムシ	<i>Appasus major</i>	○	○	
222		マツモムシ	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>	○	○	
223	ヘビ <sup>レ</sup> トンボ	ヘビ <sup>レ</sup> トンボ	タイリクロロシ <sup>レ</sup> ヘビ <sup>レ</sup> トンボ	<i>Parachauiodes continentalis</i>	○		
224			ヘビ <sup>レ</sup> トンボ	<i>Protohermes grandis</i>	○		
225		センブリ	ネク <sup>レ</sup> センブリ	<i>Sialis japonica</i>		○	
226	アミカゲ <sup>レ</sup> ロウ(脈翅)	ヒロバカゲ <sup>レ</sup> ロウ	ヒロバカゲ <sup>レ</sup> ロウ	<i>Lysmus harmandinus</i>	○		
227			キマダラヒロバカゲ <sup>レ</sup> ロウ	<i>Spilosmylus flavigornis</i>	○		
228		クサカゲ <sup>レ</sup> ロウ	フタモシクサカゲ <sup>レ</sup> ロウ	<i>Dichochrysa formosanus</i>	○		
229		ヒメカゲ <sup>レ</sup> ロウ	ヤマヒメカゲ <sup>レ</sup> ロウ	<i>Hemerobius japonicus</i>		○	
			Hemerobius属	<i>Hemerobius sp.</i>		○	
			ヒメカゲ <sup>レ</sup> ロウ科	<i>Hemerobiidae sp.</i>	○		
230			ウスバカゲ <sup>レ</sup> ロウ	<i>Baliga micans</i>	○	○	
231	シリアケ <sup>レ</sup> ムシ(長翅)	カ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup> ンホ <sup>モト</sup> キ	クロヒメカ <sup>レ</sup> ンホ <sup>モト</sup> キ	<i>Bittacus takaoensis</i>	○		
232		シリアケ <sup>レ</sup> ムシ	ヤマトリシリアケ <sup>レ</sup>	<i>Panorpa japonica</i>	○		
233			ブライシリシリアケ <sup>レ</sup>	<i>Panorpa pryeri</i>	○	○	
234	トビ <sup>レ</sup> ケラ(毛翅)	シマトビ <sup>レ</sup> ケラ	シマトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Cheumatopsyche</i> 属	<i>Cheumatopsyche sp.</i>	○	
235				<i>Hydropsyche</i> 属	<i>Hydropsyche sp.</i>	○	○
236		ヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> カワトビ <sup>レ</sup> ケラ	ヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> カワトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	○	○	
237		ナガ <sup>レ</sup> レトビ <sup>レ</sup> ケラ	Rhyacophila属	<i>Rhyacophila sp.</i>		○	
238		ニンキ <sup>レ</sup> ヨウトビ <sup>レ</sup> ケラ	ニンキ <sup>レ</sup> ヨウトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Goera japonica</i>	○	○	
239		カクツツトビ <sup>レ</sup> ケラ	カクツツトビ <sup>レ</sup> ケラ科	<i>Lepidostomatidae sp.</i>	○		
240		ヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> トビ <sup>レ</sup> ケラ	アオヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> トビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Mystacides azureus</i>		○	
241			コ <sup>モ</sup> マダラヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> トビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Oecetis nigropunctata</i>		○	
242		エクリトビ <sup>レ</sup> ケラ	エクリトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Nemoura admorsus</i>	○		
243			Nothopsyche属	<i>Nothopsyche sp.</i>	○		
244			エクリトビ <sup>レ</sup> ケラ科	<i>Limnephilidae sp.</i>	○		
245		トビ <sup>レ</sup> ケラ	ムラサキトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Eubasilissa regina</i>	○		
			ツマグ <sup>レ</sup> ロトビ <sup>レ</sup> ケラ	<i>Phryganea japonica</i>		○	
246	チヨウ(鱗翅)	キバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	イロキバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Brachmia triannulella macroscopa</i>		○	
247			カバ <sup>レ</sup> イロキバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Carbatina picrocarpa</i>		○	
248			オオフサキバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Gaesia atomogypsa</i>		○	
249		ヒゲ <sup>レ</sup> ナガ <sup>レ</sup> キバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	ムモンヒロバ <sup>レ</sup> キバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Odites lividula</i>	○		
250		マルハキバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	ホリオヒ <sup>レ</sup> キマルハキバ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Cryptolechia malacobyrsa</i>	○		
251		スカ <sup>レ</sup>	コナカ <sup>レ</sup>	<i>Plutella xylostella</i>	○	○	
252			リンゴ <sup>レ</sup> スカ <sup>レ</sup>	<i>Iponomeuta malinellus</i>	○		
253			オキナキチフ <sup>レ</sup> カ <sup>レ</sup>	<i>Ipsolopha blandellus</i>	○		
254			ホ <sup>レ</sup> クトウカ <sup>レ</sup>	<i>Cossus jezoensis</i>	○		
255			ハマキバ <sup>レ</sup>	<i>Adoxophyes orana fasciata</i>	○		

\* 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(7) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(7/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
299	チョウ(鱗翅)	ハマキガ	アサマイモンジ*	<i>Limenitis glorifica</i>		○	
300			ジヤノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	○	○	○
301			コグヤノメ	<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>	○		
302			ヒメジヤノメ	<i>Mycalesis gotama fulginia</i>	○		
303			サトキダラヒカゲ*	<i>Neope goschkevitschii</i>	○		
304			ヤマキダラヒカゲ 本土亜種	<i>Neope niphonica niphonica</i>	○		
305			コミシ* 本州以南亜種	<i>Neptis sappho intermedia</i>	○	○	
306			オセカケ*	<i>Ninguta schrenckii schrenckii</i>	○	○	
307			アサギマダラ	<i>Parantica sita niphonica</i>	○		
308			キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○	○	
309			オムラサキ	<i>Sasakiia charonda charonda</i>		○	○
310			ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>	○	○	
311			アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	○	○	
312			ヒメウナミジヤノメ	<i>Iphima argus argus</i>	○	○	
313		アゲハチョウ	カラスアゲハ 本土亜種	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>	○	○	
314			モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>	○		
315			ギザギハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>	○	○	
316			クロアゲハ 本土亜種	<i>Papilio protenor demetrius</i>	○	○	
317			アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	○	○	
318			ウスバシロチョウ	<i>Parnassius citrinarius citrinarius</i>	○		
319	シロチョウ		ツマキヨウ 本土亜種	<i>Anthocharis scolytmus scolytmus</i>	○	○	
320			モンキヨウ	<i>Colias erate poliographa</i>	○	○	
321			キタキヨウ	<i>Eurema mandarina</i>	○	○	
322			スズグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	○	○	
323			モンシヨウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>	○	○	
324	ツトガ*		クロウムラキノメイカ*	<i>Agrotera posticalis</i>	○		
325			ハラガキヤマダラノメイカ*	<i>Analthes maculalis</i>	○		
326			シロヒモシノメイカ*	<i>Analthes semitritalis orbicularis</i>	○		
327			フチムラキノメイカ*	<i>Aurorobotys aurorina</i>	○		
328			シロテウスグロノメイカ*	<i>Bradina atopalis erectalis</i>	○	○	
329			モンウスグロノメイカ*	<i>Bradina geminalis</i>	○		
330			サツマツトガ*	<i>Calamotropha okanoi</i>	○	○	
331			シロツトガ*	<i>Calamotropha paludella purella</i>		○	
332			フタオレツトガ*	<i>Calamotropha yamanakai yamanakai</i>	○		
333			ハタカノメイカ*	<i>Camptomastix hisbonalis</i>	○		
334			ヨシツトガ*	<i>Chilo luteellus</i>		○	
335			ウスクロシツトガ*	<i>Chrysoteuchia diplogramma</i>	○		
336			カキバノメイカ*	<i>Circobotys nycterina</i>	○		
337			キヤヒメノメイカ*	<i>Diasemia acalis</i>	○		
338			シロヤヒメノメイカ*	<i>Diasemia reticularis</i>	○		
339			マルモンヤマメイカ*	<i>Eudonia puellaris</i>		○	
340			クロヘリキノメイカ*	<i>Goniorhynchus butyrosus</i>	○		
341			オオモンシロリノメイカ*	<i>Hemopsis dissipatalis</i>	○		
342			キモウスグロノメイカ*	<i>Herpetogramma magnum</i>		○	

\* 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(8) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(8/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
343	チョウ(鱗翅)	ツトガ	マエキノメイカ	<i>Herpetogramma rude</i>	○		
344			ケガカヒビクロノメイカ	<i>Herpetogramma stultale</i>	○		
345			マメノメイカ	<i>Maruca vitrata</i>	○		
346			シロテンキノメイカ	<i>Nacoleia commixta</i>	○	○	
347			イノウエノメイカ	<i>Nacoleia inouei</i>	○		
348			ホシオビホソリノメイカ	<i>Nomis albopedalis</i>	○		
349			シロアシクロノメイカ	<i>Omiodes tristrialis</i>	○		
350			アリノメイカ	<i>Ostrinia furnacalis</i>		○	
351			アズキノメイカ 本州・四国・九州亜	<i>Ostrinia scapulalis subpacific</i>	○		
352			マエヘニノメイカ	<i>Paliga minnehaha</i>	○		
353			マエアカスカシノメイカ	<i>Palpita nigropunctalis</i>	○	○	
354			ウコンノメイカ	<i>Pleuroptya ruralis</i>	○		
355			キムシノメイカ	<i>Prodasyncnemis inornata</i>	○		
356			ミカエリツクノメイカ	<i>Pronomis delicatalis</i>	○		
357			ホソシツトガ	<i>Pseudargyria interruptella</i>	○		
358			モンスカシノメイカ	<i>Pseudebulea fentoni fentoni</i>	○		
359			クロオビノメイカ	<i>Pycnarmon pantherata</i>		○	
360			ヒストジオオメイカ	<i>Scirphophaga lineata</i>	○		
361			シロオビノメイカ	<i>Spoladea recurvalis</i>		○	
362			ウツモンシロノメイカ	<i>Togabotys fuscolineatalis</i>	○		
363			クロスジノメイカ	<i>Tyspanodes striatus striatus</i>	○		
364			コマルモノノメイカ	<i>Udea montensis</i>	○		
365	メイカ		ナンモンクロマタラメイカ	<i>Acrobasis bellulella</i>		○	
366			キシングマダラメイカ	<i>Acrobasis rubrizonella</i>	○		
367			ツツマタラメイカ	<i>Acrobasis squalidella</i>	○		
368			ウヌアカムラサキマタラメイカ	<i>Addyme confusalis</i>	○	○	
369			フタシロデンホソマタラメイカ	<i>Assara korbi</i>		○	
370			ウヌアカモンクロマタラメイカ	<i>Ceroprepes ophthalmamicella</i>		○	
371			オオウスベニトガリメイカ	<i>Endotricha icelusalis</i>		○	
372			シロイチモジマダラメイカ	<i>Etiella zinckenella</i>		○	
373			イタヤマダラメイカ	<i>Etielloides curvellus</i>	○	○	
374			フタスジツツリカ	<i>Eulophopalpia pauperalis</i>	○		
375			フタケロマタラメイカ	<i>Furcata dichromella</i>	○		
376			トビイロシマメイカ	<i>Hypsopygia regina</i>		○	
377			アカフツツリカ	<i>Lamoria glauca</i>		○	
378			初オフトメイカ	<i>Orthaga onerata</i>	○		
379			オオマエゾホソメイカ	<i>Paraemmalocera gensanalis</i>	○		
380			トビスジマダラメイカ	<i>Patagoniodes nipponellus</i>	○	○	
381			ヒメマエゾホソメイカ	<i>Polyocha rusticana</i>		○	
382			オオフトメイカ	<i>Salma amica</i>	○		
383			ナガオフトメイカ	<i>Salma elegans</i>	○		
384			ヒケブトマタラメイカ	<i>Spatulipalpia albistrialis</i>	○	○	
385		マドガ	マドガ	<i>Thyris usitata</i>	○		
386		カギバガ	マエカギバ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>	○	○	

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(9) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(9/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
387	チョウ(鱗翅)	カキバタガ	タケナチトガリバ	<i>Betapsestis umbrosa</i>	○		
388			ホシヘコウカキバ	<i>Deroca inconclusa phasma</i>	○		
389			ムラサキトガリバ	<i>Epipsestis ornata</i>		○	
390			ヒメウスベニトガリバ	<i>Habrosyne aurorina aurorina</i>	○	○	
391			オガサワラカキバ	<i>Microblepsis acuminata</i>	○		
392			エゾカキバ	<i>Nordstromia grisearia</i>	○		
393			アシヘニカキバ	<i>Oreta pulchripes</i>	○		
394			ウスノロトガリバ	<i>Parapsestis albida</i>	○		
395			オハトガリバ	<i>Tethea ampliata ampliata</i>	○		
396			ホリトガリバ	<i>Tethea octogesima octogesima</i>	○		
397	アゲハモドキガ	シャクガ	キンモンガ	<i>Psychostrophia melanargia</i>	○		
398			ヒトヅシマタエダシャク	<i>Abraxas latifasciata</i>	○		
399			ヒメタエダシャク	<i>Abraxas niphonibia</i>	○		
400			フタヌエホシタエダシャク	<i>Achrosis paupera</i>	○		
401			ベンノトビスジエダシャク	<i>Aethalura ignobilis</i>	○		
402			カウエタエダシャク	<i>Alcis angulifera</i>	○	○	
403			ヨモギエタエダ本州以南亜種	<i>Ascotis selenaria cretacea</i>	○		
404			ムスジシロナミシャク	<i>Asthenes nymphaea</i>	○		
405			キマダラシロナミシャク	<i>Asthenes octomacularia</i>	○		
406			オヨソジアカエタエダシャク	<i>Astygisa chlororophnodes</i>	○		
407			ハイロオエタエダシャク	<i>Biston regalis comitata</i>	○		
408			アトゲロアミエタエダシャク	<i>Cabera griseolimbata griseolimbata</i>	○		
409			コスジシロエタエダシャク	<i>Cabera purus</i>	○		
410			アトボシロエタエダシャク	<i>Cephalis advenaria</i>	○		
411			フタテンオエタエダシャク	<i>Chiasmia defixaria</i>	○		
412			コウアオシロエタエダシャク	<i>Chlorissa oblitterata</i>		○	
413			コヨメアオシロエタエダシャク	<i>Comostola subtilioria nymphe</i>	○		
414			アカシアオシロエタエダシャク	<i>Culpinia diffusa</i>	○		
415			シロモンアオシロエタエダシャク	<i>Dithecodes erasa</i>	○		
416			オハガタナシシロエタエダシャク	<i>Ecliptopera umbrosaria umbrosaria</i>	○	○	
417			シロスエタエダシャク	<i>Ecpetelia albifrontaria</i>	○		
418			フトフタオビエタエダシャク	<i>Ectropis crepuscularia</i>	○		
419			オオヒスジエタエダシャク	<i>Ectropis excellens</i>	○		
420			ウスノロエタエダシャク	<i>Ectropis obliqua</i>	○		
421			モミジツマカリエタエダシャク	<i>Endropiodes indictinaria</i>	○		
422			サラエタエダシャク	<i>Epholca arenosa</i>	○		
423			ウスオビヒメエタエダシャク	<i>Euchristophia cumulata cumulata</i>	○		
424			ハコヘナミシロエタエダシャク	<i>Euphyia cineraria</i>	○	○	
425			ミジンカヘナミシロエタエダシャク	<i>Eupithecia addictata</i>		○	
426			キアミナミシロエタエダシャク	<i>Eustroma japonica</i>	○		
427			ハカタナミシロエタエダシャク	<i>Eustroma melancholica melancholica</i>	○		
428			セシジナミシロエタエダシャク	<i>Evecliptopera illitata illitata</i>	○		
429			オイケキエタエダシャク	<i>Exangerona prattiaria</i>	○		
430			キマダラオオナミシロエタエダシャク	<i>Gandaritis fixseni</i>	○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(10) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(10/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
431	チョウ(鱗翅)	シャクガ	カキシロシジマオシヤク	<i>Geometra dieckmanni</i>	○		
432			ナミカタエダシヤク	<i>Heterarmia charon charon</i>	○		
433			ウラベニエダシヤク	<i>Heterolocha aristonaria</i>	○		
434			カバイトヒメナミシヤク	<i>Hydrelia adesma</i>	○		
435			テンシジヒメナミシヤク	<i>Hydrelia nisaria</i>	○		
436			チビヒメナミシヤク	<i>Hydrelia shioyana</i>		○	
437			ウスハミシジエダシヤク	<i>Hypomecis punctinalis conferenda</i>	○		
438			ハミシジエダシヤク	<i>Hypomecis roboraria displicens</i>	○		
439			ヨシジキヒメシヤク	<i>Idaea auricruda</i>		○	
440			ウスキヒメシヤク	<i>Idaea biselata</i>	○	○	
441			オオウスモンキヒメシヤク	<i>Idaea imbecilla</i>		○	
442			ヒメウスアオシヤク	<i>Jodis putata</i>	○		
443			シロシジヒメエダシヤク	<i>Ligdia japonaria</i>	○		
444			ウスフクシジシロエダシヤク	<i>Lomographa subspersata</i>	○		
445			バラシロエダシヤク	<i>Lomographa temerata</i>	○		
446			シャンハイオエダシヤク	<i>Macaria shanghaisaria</i>	○		
447			ズグロツバメアオシヤク	<i>Maxates fuscofrons</i>	○		
448			ハガタツバメアオシヤク	<i>Maxates grandificaria</i>	○		
449			ウスクモエダシヤク	<i>Menophra senilis</i>	○		
450			チビトビスジエダシヤク	<i>Myrioblephara nanaria</i>	○		
451			クロミシジシロエダシヤク	<i>Myrteta angelica angelica</i>	○		
452			ホンシジシロエダシヤク	<i>Myrteta punctata</i>	○		
453			マエキトビエダシヤク	<i>Nothomiza formosa</i>	○	○	
454			コヨツメエダシヤク	<i>Ophthalmitis irrorataria</i>	○		
455			ウスキツバメエダシヤク	<i>Ourapteryx nivea</i>	○		
456			ツマキリウスキエダシヤク	<i>Pareclipsis gracilis</i>	○		
457			ウラモンアエダシヤク	<i>Parepione grata</i>	○	○	
458			ウスケタミエダシヤク	<i>Phanerothyris sinearia noctivolans</i>	○		
459			リンコツノエダシヤク	<i>Phthonosema tendinosaria</i>	○		
460			コアヤシヤク	<i>Pingasa pseudoterpnaria</i>		○	
461			カカキエダシヤク	<i>Plagodis dolabraria</i>	○		
462			コナフキエダシヤク	<i>Plagodis pulveraria japonica</i>	○		
463			マエキオエダシヤク	<i>Plesiomorpha flaviceps</i>		○	
464			オオクロオビナミシヤク	<i>Praetherera praefecta</i>	○		
465			オレキエダシヤク	<i>Protoboarmia simpliciaria</i>	○		
466			カゲロエダシヤク	<i>Ramobia basifuscaria</i>	○		
467			フタシジオエダシヤク	<i>Rhynchobapta cervinaria bilineata</i>	○		
468			フタヤマエダシヤク	<i>Rikiosatoa grisea</i>	○		
469			ウスキトガリヒメシヤク	<i>Scopula confusa</i>		○	
470			モントヒメシヤク	<i>Scopula modicaria</i>	○		
471			マエキヒメシヤク	<i>Scopula nigropunctata imbellia</i>		○	
472			ハガタムラサキエダシヤク	<i>Selenia sordidaria</i>	○		
473			ビロードナミシヤク	<i>Sibatania mactata</i>		○	
474			シロオビマルバナミシヤク	<i>Solitanea defricata</i>	○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(11) 確認種一覧 (動物相: 昆虫類) ※ (11/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目すべき種
475	チョウ(鱗翅)	シャクカ	ハグマエダシャク	<i>Synechia hadassa hadassa</i>	○		
476			マルハグマエダシャク	<i>Synechia ichinosawana</i>	○		
477			スジハグマエダシャク	<i>Synechia limitataoides</i>		○	
478			テンツマニシシャク	<i>Telenomeuta punctimarginaria punctimarginaria</i>	○		
479			ヨツメオシシャク	<i>Thetidia albocostaria</i>		○	
480			ミヤマツメエダシャク	<i>Thinopteryx delectans</i>	○		
481			コヘニスジヒメシャク	<i>Timandra comptaria</i>		○	
482			ヨシシナミシャク	<i>Xanthorhoe quadrifasciata ignobilis</i>		○	
483			モンシロツマキエダシャク	<i>Xerodes albonotaria albonotaria</i>	○		
484			ミシツマキエダシャク	<i>Xerodes rufescens</i>	○		
485			トカリエダシャク	<i>Xyloscia subspersata</i>	○		
486		ツバメガ	クロホシタオ	<i>Dysaethria moza</i>	○		
487			クロフタオ	<i>Epiplema styx</i>	○		
488	カリモンガ	カリモンガ	カリモンガ	<i>Pterodecta felderi</i>		○	
489		カイコガ	クリコ	<i>Bombyx mandarina</i>	○		
490			オオクリコモドキ	<i>Oberthueria falcigera</i>	○		
491		カレハガ	マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>	○		
492			ツカカレハ	<i>Dendrolimus superans</i>	○		
493			タカカレハ	<i>Euthrix albomaculata directa</i>	○		
494			ヨシカレハ	<i>Euthrix potatoria bergmani</i>	○		
495			リソゴカレハ	<i>Odonestis pruni japonensis</i>	○		
496	ヤママユガ	オオミズアオ本土亜種	<i>Actias aliena aliena</i>		○		
497		ヤママユ本土亜種	<i>Antheraea yamamai yamamai</i>		○		
498		クスサン本土亜種	<i>Saturnia japonica japonica</i>		○		
499	スズメガ	クルマスズメ本土亜種	<i>Ampelophaga rubiginosa rubiginosa</i>		○		
500		ウンモンスズメ	<i>Callambulyx tatarinovii gabiae</i>		○		
501		サザナミスズメ	<i>Dolbina tancrei</i>		○		
502		クロテンケンモンスズメ	<i>Kentrochrysalis consimilis</i>		○		
503		モモスズメ	<i>Marumba gaschkevitschii echephron</i>		○		
504		クチバズズメ	<i>Marumba sperchius sperchius</i>		○		
505		エゾシモフリスズメ	<i>Meganoton analis scribae</i>		○		
506		ホシヒメホウゾウヤク	<i>Neogurelca himachala sangaica</i>			○	
507		コウチスズメ	<i>Smerinthus tokyonis</i>		○		
508	シャチホコガ	セゲロシャチホコ	<i>Clostera anastomosis</i>		○		
509		バハイラロシャチホコ	<i>Cnethodonta grisescens grisescens</i>		○	○	
510		キシャチホコ	<i>Cutuza straminea</i>		○		
511		トリモンシャチホコ	<i>Drymonia dodonides daisenensis</i>		○		
512		コトリモンシャチホコ	<i>Drymonia japonica</i>		○		
513		クロテンシャチホコ	<i>Ellida branickii</i>		○		
514		セゲカシシャチホコ	<i>Euhampsonia cristata</i>		○		
515		アオセゲカシシャチホコ	<i>Euhampsonia splendida</i>		○		
516		ホリバシシャチホコ	<i>Fentonnia ocypete ocypete</i>		○	○	
517		アカシャチホコ	<i>Gangaridopsis citrina</i>		○		
518		ギンシャチホコ	<i>Harpyia umbrosa ginkakuji</i>		○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(12) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(12/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
519	チョウ(鱗翅)	シヤチホコ科	ツマジロシヤチホコ	<i>Hexafrenum leucodera leucodera</i>	○		
520			クロスピシヤチホコ	<i>Lophocosma sarantuja</i>	○		
521			ヒナシヤチホコ	<i>Micromelalopha troglodyta</i>	○		
522			ハイロシヤチホコ	<i>Microphalera grisea grisea</i>	○		
523			フタジマネグロシヤチホコ	<i>Neodrymonia delia</i>	○		
524			ナカシジンシヤチホコ	<i>Nerice bipartita</i>	○		
525			ニトベシヤチホコ	<i>Peridea aliena</i>	○		
526			ナカキシヤチホコ	<i>Peridea gigantea</i>	○		
527			ルリモンシヤチホコ	<i>Peridea oberthueri oberthueri</i>	○		
528			モンクロシヤチホコ	<i>Phalera flavescens</i>	○		
529			スヌキシヤチホコ	<i>Pheosiopsis cinerea cinerea</i>	○	○	
530			オエグリシヤチホコ	<i>Pterostoma gigantinum</i>	○	○	
531			クロエグリシヤチホコ	<i>Ptilodon okanoi</i>	○		
532			トビキンボシヤチホコ	<i>Rosama ornata</i>	○		
533			カエデシヤチホコ	<i>Semidonta biloba</i>	○		
534			クビワシヤチホコ	<i>Shaka atrovittatus atrovittatus</i>	○		
535			ウスイロギンモンシヤチホコ	<i>Spatialia doerriesi</i>	○		
536			オオオシヤチホコ	<i>Syntypistis cyanea cyanea</i>	○		
537			タテシシヤチホコ	<i>Togepteryx velutina</i>	○		
538	ヒトリガ	ヒトリガ科	ヒトリガ	<i>Arctia caja phaeosoma</i>	○		
539			コマグラヘニコケガ	<i>Barsine pulchra</i>		○	
540			スジヘニコケガ	<i>Barsine striata striata</i>	○		
541			シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>	○		
542			アカシジンシロケガ	<i>Cyana hamata hamata</i>	○		
543			ヒメホソバ	<i>Dolgoma cibrata</i>	○		
544			ムジホソバ	<i>Eilema deplana pavescens</i>	○		
545			ニセキマホソバ	<i>Eilema nankingica</i>	○		
546			キシタホソバ	<i>Eilema vetusta aegrota</i>	○	○	
547			クロシロヒトリ	<i>Eospilarctia lewisii</i>	○		
548			キマエクロホソバ	<i>Ghoria collitoides</i>	○		
549			クリコマダラヒトリ	<i>Lemyra imparilis</i>	○		
550			クロミヤクホソバ	<i>Pelosia ramosula jezoensis</i>	○	○	
551			ベニシタヒトリ	<i>Rhyparioides nebulosa</i>		○	
552			キハラコマダラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedum</i>		○	
553			アカハラコマダラヒトリ	<i>Spilosoma punctarium</i>	○		
554	トクガ	トクガ科	トクガ	<i>Artaxa subflava</i>	○		
555			スズキトクガ	<i>Calliteara conjuncta</i>	○		
556			アカヒゲトクガ	<i>Calliteara lunulata lunulata</i>	○		
557			リンゴトクガ	<i>Calliteara pseudabietis pseudabietis</i>	○		
558			マトクガ	<i>Cifuna locuples confusa</i>	○		
559			フドウトクガ	<i>Ilema eurydice</i>	○	○	
560			キトクガ	<i>Kidokuga piperita</i>	○		
561			スゲオトクガ	<i>Laelia gigantea</i>	○		
562			マイイカ	<i>Lymantria dispar japonica</i>	○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(13) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(13/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
563	チョウ(鱗翅)	ヤカ"	サクラケンモン	<i>Acronicta adaucta</i>	○		
564			ナシケンモン	<i>Acronicta rumicis</i>		○	
565			カブ"ラヤカ"	<i>Agrotis segetum</i>		○	
566			オオカブ"ラヤカ"	<i>Agrotis tokionis</i>		○	
567			オオウツヅ"カラスヨトウ	<i>Amphipyra erebina</i>	○		
568			カラスヨトウ	<i>Amphipyra livida corvina</i>	○		
569			シマカラスヨトウ	<i>Amphipyra pyramidea yama</i>	○		
570			ツマジ"ロカラスヨトウ	<i>Amphipyra schrenckii</i>	○		
571			シロスジ"カラスヨトウ	<i>Amphipyra tripartita</i>	○		
572			ホリハ"カハ"アツハ"	<i>Anachrostis minutissima</i>	○		
573			クロテンカハ"アツハ"	<i>Anachrostis nigripunctalis</i>		○	
574			ウスヘ"リケンモン	<i>Anacronicta nitida</i>	○		
575			ネジン"シラクモヨトウ	<i>Apamea hampsoni</i>	○		
576			ハカ"タウスキヨトウ	<i>Archanaara resoluta</i>		○	
577			クロテンヨトウ	<i>Athetis cinerascens</i>		○	
578			シロモンヒ"ヨトウ	<i>Athetis lineosa</i>	○		
579			ヒメサビ"スジ"ヨトウ	<i>Athetis stellata</i>	○		
580			モクメヤカ"	<i>Axylia putris</i>	○		
581			コウンモンクチハ"	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>	○		
582			ボンムラサキアツハ"	<i>Bomolocha nigrobasalis</i>	○		
583			シラクモアツハ"	<i>Bomolocha zilla</i>	○		
584			ウスアオモンコヤカ"	<i>Bryophilina mollicula</i>	○		
585			マグ"ラツマキリヨトウ	<i>Callopistria repleta</i>	○		
586			マメキシタハ"	<i>Catocala duplicita</i>	○	○	
587			ジ"ヨナスキシタハ"	<i>Catocala jonasii</i>	○		
588			シロシタハ"	<i>Catocala nivea nivea</i>	○		
589			キシタハ"	<i>Catocala patala</i>		○	
590			コガ"タキシタハ"	<i>Catocala praegnax olbiterata</i>		○	
591			ヒトテンヨトウ	<i>Chalconyx ypsilon</i>	○		
592			マエモンコヤカ"	<i>Chorsia japonica</i>	○		
593			エゾ"コヤカ"	<i>Chorsia noloides</i>	○		
594			カケモンギシタハ"	<i>Chrysorithrum amatum</i>	○		
595			ホリハ"ネグ"ヨトウ	<i>Chytonix subalbonotata</i>	○		
596			ネグ"ロケンモン	<i>Colocasia jezoensis</i>	○		
597			ツマヘ"ニシマコヤカ"	<i>Corgatha obsoleta</i>	○		
598			ジオヒ"キリカ"	<i>Cosmia camptostigma</i>		○	
599			クロフケンモン	<i>Cranionycta jankowskii</i>	○		
600			クンヒゲ"ウスキヨトウ	<i>Ctenostola sparganoides</i>	○	○	
601			フタシジ"コヤカ"	<i>Deltote bankiana amurula</i>	○		
602			オオハ"コヤカ"	<i>Diarsia canescens</i>	○		
603			コウスチャヤカ"	<i>Diarsia deparca</i>	○		
604			ウツヅ"マクチハ"	<i>Dinumma deponens</i>	○		
605			ヨツモンムラサキアツハ"	<i>Diomea discisigna</i>	○		
606			マエヘリモンアツハ"	<i>Diomea jankowskii</i>	○		

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。

表 8.7-13(14) 確認種一覧（動物相：昆虫類）※(14/29)

No	目名	科名	種名	学名	現況調査 H25-H26	事後調査 R1-R2	注目 すべき種
607	チョウ(鱗翅)	ヤカ"	オオシラホシアツバ"	<i>Edessena hamada</i>		○	
608			モンシロムラサキチハ"	<i>Ercheia niveostrigata</i>		○	
609			モンムラサキチハ"	<i>Ercheia umbrosa</i>		○	
610			アカテンクチハ"	<i>Erygia apicalis</i>		○	
611			コホウトガリヨトウ	<i>Gortyna fortis</i>	○		
612			オオタバコガ"	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>		○	
613			ウスキミシジアツバ"	<i>Herminia arenosa</i>	○	○	
614			クロスジアツバ"	<i>Herminia grisealis</i>	○	○	
615			シラナミアツバ"	<i>Herminia innocens</i>		○	
616			トビスズアツバ"	<i>Herminia tarsicrinalis</i>	○		
617			ホンホシヤカ"	<i>Hermonassa arenosa</i>	○		
618			クロクモヤカ"	<i>Hermonassa cecilia</i>	○	○	
619			オオシラノミアツバ"	<i>Hipoepa fractalis</i>		○	
620			ヒロオビウスクロアツバ"	<i>Hydrellodes morosa</i>	○	○	
621			ヒロビヒトガリアツバ"	<i>Hypenomorpha calamina</i>	○		
622			モンキコヤカ"	<i>Hyperstrotia flavigipuncta</i>	○		
623			クロモンヨヤカ"	<i>Koyaga senex</i>	○		
624			トビフタスジアツバ"	<i>Leiostola mollis</i>	○		
625			キマタラアツバ"	<i>Lophomilia polybapta</i>	○		
626			チビアツバ"	<i>Luceria fletcheri</i>	○		
627			クビクロロクチハ"	<i>Lygephila maxima</i>	○	○	
628			ネンコヤカ"	<i>Maliattha chalcogramma</i>	○		
629			ヨトウガ"	<i>Mamestra brassicae</i>	○		
630			ツマオビアツバ"	<i>Mesoplectra griselda</i>	○		
631			フタホシコヤカ"	<i>Micardia pulchra</i>	○		
632			ウラモンチビアツバ"	<i>Micreremites pyraloides</i>	○	○	
633			ニセウンモンクチハ"	<i>Mocis ancilla</i>	○	○	
634			ウンモンクチハ"	<i>Mocis annetta</i>	○		
635			コマケンモン	<i>Moma alpium</i>	○		
636			フサキバアツバ"	<i>Mosopia sordidum</i>	○		
637			ナガフタオビキヨトウ	<i>Mythimna divergens divergens</i>	○		
638			マダラキヨトウ	<i>Mythimna flavostigma</i>	○		
639			クロシタキヨトウ	<i>Mythimna placida</i>	○		
640			フタオビキヨトウ	<i>Mythimna turca</i>	○		
641			フタオビコヤカ"	<i>Naranga aenescens</i>	○		
642			アトキスジクルマコヤカ"	<i>Oruza mira</i>	○		
643			ツマジロツマキリアツバ"	<i>Pangrapta lunulata</i>	○		
644			オビアツバ"	<i>Paracolax fascialis</i>	○		
645			ミスジアツバ"	<i>Paracolax trilinealis</i>	○		
646			クルマアツバ"	<i>Paracolax tristalis</i>		○	
647			シロマタラコヤカ"	<i>Protodeltote distinguenda</i>	○		
648			フタスジヨトウ	<i>Protomiselia bilineata</i>	○		
649			マエホシヨトウ	<i>Pyrrhidivalva sordida</i>	○		
650			テングロアツバ"	<i>Rivula sericealis</i>	○	○	

※ 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省 2019年)に従ったが、一部、他の文献を参考にした。